

2022年度 日本工学院専門学校											
放送芸術科											
ワークショップ 3											
対象	2 年次	開講期	前期	区分	選択	種別	講義	時間数	60	単位	4
担当教員	高沢敦博			実務経験	有	職種	映像制作業務				
担当教員紹介											
放送業界で製作業務に従事していた マスコミ業界でマネージャー業務に従事していた											
授業概要											
映像製作者として正しい映像の見識を持ち、コンテンツを「主題」「脚本」「演出」「撮影技術」「演技」と視点を複数持ち鑑賞できるスキルを持つことを目的とする。											
到達目標											
学生が特に＜実習＞において学ぶ技術は、実際どういった場面で、どのように生かせるのか、より視覚的なアプローチで示す授業である。学生は様々な映画、TV番組、映像を解説付きで鑑賞し、撮影技法、演出方法を一体的に学ぶことになる。映像から、それはどのようにどこから撮影されているかを想像し、理解することがひとつの目標となる。											
授業方法											
この授業では、個人ワークやグループワークを採り入れる。特にグループワークでは他人に気を遣い過ぎず、まず他人を傷つけることなく自分の意見を上手に伝えること、さらに相手の話をきちんと最後まで聞き、すぐに否定せず理解することを促す。そしてチームの意見としてまとめる努力をする。決して答えがあるわけではない映画を使い、習慣づけることを狙いとする。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。定期試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な授業参加度、受講態度などによって評価する									
履修上の注意											
この授業では言葉を発することを促し、思っていること・意見を積極的に言えるようにし、多角的なモノの見方を学ぶので、学生同士の会話をある程度許容する。教員は、学生の勇気をもって発言した内容を否定しない。まず受け止め肯定し、いい点を褒める。次に反対意見、違う意見を求め、対話をリードする。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
必要がある場合は授業内で配布											
回数	授業計画										
第1回	巨匠の映画術① 「シャイニング」等を使い、スタンリーキューブリック監督ほか名匠巨匠の映画技法を学ぶ										
第2回	巨匠の映画術② 後発作品リメイクやオマージュをたどり、技術の変化を学ぶ										
第3回	巨匠の映画術③ 原作者の意図と映像化というズレから、映像の特性を考える										
第4回	巨匠の映画術④ スティーヴン・スピルバーグ監督ほか監督業とプロデュースの立ち位置の違いを考える										
第5回	巨匠の映画術⑤ 現代の映画監督にとり、キューブリック他歴史的な監督作品の位置づけを考える										

2022年度 日本工学院専門学校		
放送芸術科		
ワークショップ3		
第6回	イスラム圏の映画制作①	イランの映画におけるイスラムの考え方。そして政府の検閲の存在
第7回	イスラム圏の映画制作②	サウジアラビア史上初の女性映画監督作品に見るジェンダー差別の実態と文化
第8回	イスラム圏の映画制作③	レバノン映画に見るパレスチナ移民の実態と宗教の問題
第9回	イスラム圏の映画制作④	パレスチナで制作される映画。イスラエルの歴史と軍事支配の実態
第10回	特殊撮影①	「マッドマックス怒りのデスロード」などの作品における移動撮影
第11回	特殊撮影②	新たなCG、従来とは異なる合成の使い方
第12回	特殊撮影③	エアリアル撮影の現在。撮影現場の安全確保
第13回	日本映画の未来の希望①	白石和彌監督ほか作品の新しさと暴力表現
第14回	日本映画の未来の希望②	三宅唱監督、深田晃司監督ら、若手監督の息吹
第15回	歴史、政治、映画	韓国の近現代史とその表現